

令和2年10月13日

報道機関 各位

「1型糖尿病研究基金」による研究継続助成を獲得  
～ふるさと納税を財源とした900万円の継続助成～

富山大学附属病院の中條大輔（ちゅうじょう だいすけ）特命教授は、発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する研究について、日本IDDMネットワークから研究助成をいただいております。2019年3月に1,100万円、そして今回900万円の研究助成をいただいたため、あらためて贈呈式を実施いたします。

つきましては、下記の通り贈呈式と記者会見を行いますので、取材・報道方よろしくお願いたします。

## 記

1. 日時 令和2年10月30日（金）15:00～16:30（予定）
  - ・ 贈呈者の挨拶
  - ・ 研究概要、現在の進捗状況の説明
  - ・ 記者会見、報道機関を対象とした質疑応答
2. 場所 富山大学杉谷キャンパス医薬イノベーションセンター1階大会議室  
（富山市杉谷 2630）別添案内図参照
3. 出席者
  - 井上 龍夫（認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク 理事長）
  - 林 篤志（富山大学附属病院長）
  - 中條 大輔（富山大学附属病院 臨床研究管理センター 特命教授）
  - 戸邊 一之（富山大学学術研究部医学系 内科学第一講座 教授）※井上理事長は Zoom Meeting でオンライン参加

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 医薬系事務部研究協力課 澤山  
TEL. 076-434-7141

## 【助成研究の概要】

研究課題名 : 発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験

研究代表者 : 中條大輔 (富山大学附属病院臨床研究管理センター 特命教授)

研究のゴール : 1型糖尿病の治療法開発

研究の特徴 : 1型糖尿病の根治を目指すには、疾患の原因である「自己免疫」を制御する必要がありますが、最近までその方法は確立されていませんでした。本研究は、米国での研究発表をもとに薬剤を用いて自己免疫の制御を試みる、国内初の臨床試験です。

研究の概要 : 発症して間もない (まだ自分のインスリンが残っている) 1型糖尿病患者さんを対象に、薬剤を用いた免疫修飾療法を行うことで自己免疫を制御し、自分のインスリンを減らさずに維持することを目的としています。2種類の薬剤によって自己免疫の主役である「病原性リンパ球をやっつけるとともに、自己免疫を阻止する「制御性リンパ球」を増やすことで自己免疫を目指す治療です。この治療は「臨床試験」という仕組みで行うため、免疫修飾療法を受ける患者さんと受けない患者さんを比較し、2年間注意深く経過観察することで、この治療が有効かどうか、また安全かどうかを検討します。

### ■1型糖尿病とは

原因不明で突然、小児期～成人期まで幅広い年代で発症し、現在の医学水準では発症すると生涯に渡って毎日4～5回の注射又はポンプによるインスリン補充がないと数日で死に至る難病。

自己体内のインスリンが極度に減少するため血糖制御が困難となり、重症化とともに生活の質(QOL)が著しく損なわれることがある。糖尿病患者の大半を占める生活習慣病と称される2型糖尿病に対し、国内での年間発症率は10万人あたり1～2人と希少な病であるため患者と家族の精神的、経済的負担は大きい。

### ■研究費助成について

認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク (理事長 井上理事、本部 佐賀市) は、全国の1型糖尿病患者・家族を支援する1型糖尿病根絶 (=予防+根治+治療) を目指す研究を応援しています。2005年の1型糖尿病研究基金設立後、これまで84件、4億1,750万円の研究助成を行っています。当基金は、患者・家族自らが「不治の病を治る病にする」、「不可能を可能にする」挑戦に賛同いただいた方々からの当法人への直接の寄附並びに“佐賀県庁への「日本IDDMネットワーク指定」ふるさと納税”など、日本全国の方々からのご支援で成り立っています。



U15 : 医薬イノベーションセンター

駐車ゲート  
駐車券をお取り下さい。